

序

当研究所は、昭和55年度も恒例の事業として教育論文集の刊行を企画し、論説の部、実践記録の部に分けて原稿を募集しましたところ、各学校の先生方から10編の原稿をお寄せいただきました。

本年は、10編全部実践記録となっています。

実践記録の内容のうち、6編が教科指導に関するもの、1編が現職教育に関するもの、1編が児童の災害状況に関するもの、1編が学校教育目標に関するもの、1編がアメリカ教科書の翻訳に関するものです。

教科指導に関するものは、児童・生徒自らが学んでいくところに視点をあてた研究実践であり、これは、学習指導要領のめざす主体性をもった人間の育成をふまえた研究であると考えます。また、教科指導以外に関するものも、足利市の教育目標を積極的に受けとめ、自校の教育経営にどう生かしていくかはじめ、現職教育の全体構想、児童の災害状況の調査等、新しい研究の方向が伺えます。さらに、これまでも翻訳されてきましたアメリカ教科書については、引き続き今回も「自己表現と行為」が紹介されています。翻訳された紹介と合わせて、研究所保管のアメリカ教科書を読まれるようおすすめいたします。

いずれの論文も、最近の教育思潮の動向を的確に把握しながら、生涯学習を指向した様子が伺われます。また、いくつかの学校の先生方が共同で研究したものをはじめ、学校の継続的・組織的な研究実践もあり、研究の深まりがみられます。このような学校や先生方の姿勢こそ、今後の新しい足利の教育を築く大きな原動力になり、大きな期待を感じております。

以上、各学校や先生方からそれぞれ特徴をもった論文をお寄せいただきましたが、各学校における日々の教育実践に十分生かされ、本市教育の発展に寄与されることを期待いたします。

終わりに、論文をお寄せくださった学校、先生方をはじめ、関係者の方々に
お礼申し上げますとともに、みなさまのますますの御活躍を祈念して序といたします。

昭和56年3月

足利市立教育研究所長

川 上 薫